

# 第17回通常総会

2011年3月9日(水)

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

## 第17回通常総会次第

日時 2011年3月9日(水) 13時～14時

会場 豊橋技術科学大学 A-101 教室

### 総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 2010年度優秀論文賞, 第16回年次大会優秀発表賞の表彰
4. 議長選出
5. 2010年度事業報告
6. 2010年度決算報告、監査報告
7. 2011年度事業計画 提案
8. 2011年度予算計画 提案
9. 2011年度評議員構成
10. 2011年度役員構成
11. その他
12. 閉会

以上

## 2010年度事業報告

### 1. 概要

言語処理学会の主要活動として論文誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました。「自然言語処理」に関しては、通常号と共に特集号を企画・発行しました。このうち、論文誌「自然言語処理」において、2010年1月以降に受理された論文は査読委員2名による平行査読となり、判定が分かれたときの最終判定は、編集委員会が行うことになりました。

第16回年次大会は、2010年3月8日(月)から11日(木)まで、東京大学本郷キャンパスで情報処理学会の全国大会と共催いたしました。初日のチュートリアル参加者は360人、本大会のセッションも常時300名～400名程度の聴講者がありました。情報処理学会からの参加者も多数あったようです。情報処理学会と言語処理学会両大会の参加者数は、これまでのそれぞれの大会の参加者数の合計を大きく上回る7,510名となり、かつてない盛大な大会となりました。

若手研究者への支援活動として、シンポジウムの主催と学生の国際会議への参加支援を行いました。シンポジウムは、「NLP若手の会第5回シンポジウム」と題して、9/15-9/16に国立情報学研究所(東京)で開催しました。

また、以下の会議に対して協賛を行いました。

- 1)情報処理学会 全国大会  
東京大学 2010年3月8～12日
- 2)InterSpeech 2010  
幕張メッセ 2010年9月26～30日
- 3)The 24th Pacific Asia Conference on Language,  
Information and Computation (PACLIC 24)  
東北大学 2010年11月4日～7日
- 4) 第5回ロボット聴覚システム HARK 講習会  
京都大学 2010年11月25日
- 5) ISeC (NPO 法人セマンティックコンピューティング研究開発機構)  
『コンピュータにも通じる国際共通言語とグローバル情報サービス』  
東京大学 2010年11月6日

### 2. 会員現況 (2010年12月9日現在, 増減は2009年12月21日との比較)

正会員	780 (8) 名	
学生会員	139 (-1) 名	
賛助会員	13 (-1) 組織	(15口 (-2))
定期購読会員	41(-1) 組織	(48口 (-1))

### 3. 会誌の発行

7巻1号(2010年1月発行, 通巻74号)

巻頭言, 追悼, 論文 10 編, 技術資料 1 編, 会告  
7巻2号(2010年4月発行, 通巻 75号)  
巻頭言, 論文3編, 会告  
7巻3号(2010年4月発行, 通巻 76号)  
巻頭言, 論文6編, 会告  
7巻4号(2010年7月発行, 通巻 77号)  
巻頭言, 論文7編, 技術資料1編, 会告  
7巻5号(2010年10月発行, 通巻 78号)  
巻頭言, 論文2編, 技術資料1編, 会告

#### 4. 第 16 回年次大会の開催

- ◇ 開催日: 2010年3月8日(月)~3月11日(木)
- ◇ 会場: 東京大学本郷キャンパス (東京都文京区本郷7-3-1)
- ◇ プログラム:

[チュートリアル講演] (3件×2トラック) 3月8日(月)

トラック1「自然言語処理と関連領域」

「推薦システム -機械学習の視点から-」

神寫 敏弘 氏(産業技術総合研究所)

「並列テキスト処理のための環境・ツール(EC2上での並列処理体験付き)」

田浦 健次朗 氏(東京大学)

「はてなで利用している言語処理技術」

伊藤 直也 氏(株式会社はてな)

トラック2「自然言語処理学基礎論」

「超高速テキスト処理のためのアルゴリズムとデータ構造」

岡野原 大輔 氏(東京大学)

「NICT発の言語資源-ALAGINフォーラムの活動を中心に-」

風間 淳一 氏, 橋本 力 氏, 山田 一郎 氏(情報通信研究機構)

「『現代思想』と言葉——脳・認知から遠く離れて」

影浦 峯 氏(東京大学)

[Plenary Session] 言語と知識 -最新言語処理研究の射程- 3月9日(火)

「これからの言語処理とその応用」

長尾 真 氏(国立国会図書館 館長)

「総合学術オントロジー」

橋田 浩一 氏(産業技術総合研究所 社会知能技術研究ラボ長)

「MASTARプロジェクト&ALAGINフォーラム」

中村 哲 氏(情報通信研究機構)

知識創成コミュニケーション研究センター 副研究センター長)

[招待講演] 3月10日(水)

「The Challenge of the Multicores」

Fran Allen 女史 (IBM 名誉フェロー, チューリング賞受賞者)

[一般発表 講演発表] 3月9日(火), 11日(木) 発表件数 171件

[一般発表 ポスター発表] 3月10日(水) 発表件数 106件

(1)チュートリアル

今回は情報処理学会と共催のため、言語処理の専門家以外の方々にも参加いただけるよう、分野内外の幅広い話題の講演を企画し、2トラック並列で、3講演ずつ計6講演としました。後述のように、言語処理学会単独での参加者数の集計はしていませんが、チュートリアル講演資料集の申し込みが647件あり、例年と比べて多数の聴講がありました。

(2) プログラム冊子

論文集 DVD-ROM を情報処理学会と共通化し、また CD-ROM 作成や製本を情報処理学会と一本化することで、コストの低減を実現しました。

(3) テーマセッション

文系と理系の枠を越えた議論を目的として11回大会から設けられています。今回は3つのテーマを設けましたが、1つは論文が十分集まらなかったため、最終的に以下の2つのテーマセッションを設けました。

テーマセッション1: 「言語表現」と「言語」のあいだ

テーマセッション2: 協調的な自然言語処理

これらに加え、特定領域研究「情報爆発時代に向けた新しいIT基盤技術の研究」が大きな注目を集めているため、特別セッションとして「情報爆発特別セッション」を設けました。いずれのセッションにおいても、活発な議論が交わされました。

(4) 招待講演, Plenary session

招待講演は情報処理学会と共通で、チューリング賞受賞者であり Fran Allen 女史 (IBM 名誉フェロー) に「The Challenge of the Multicores」という題目で行っていただきました。これに加え、情報処理学会との共同企画として、「言語と知識ー最新言語処理研究の射程ー」というタイトルで Plenary session を行い、長尾真氏 (国立国会図書館 館長)、橋田浩一氏 (産業技術総合研究所)、中村哲氏 (情報通信研究機構) にご講演いただきました。

(5) ワークショップ

例年通りワークショップの公募を行いました。昨年に続き今年も応募が無く、ワークショップは開催しませんでした。

◇ 年次大会優秀発表賞

言語処理学会年次大会優秀発表賞は、年次大会において、論文の内容およびプレゼンテーションに優れたものと認められた発表論文に与えられる賞です。また、優秀発表賞のうち特に優れたものがあれば、最優秀発表賞として選定することが第11回からとりいれられました。

第16回年次大会プログラム委員会は、選考委員会での審議に基づき、次に示す2件の最優秀発表賞ならびに4件の優秀発表賞と3件の若手奨励賞を選定しました。

最優秀発表賞 (2件)

\* A4-4 学習効果を最大とするための英文誤り検出の性能評価

○ 永田亮, 中谷和秀 (甲南大)

\* PA2-22 文間意味的關係認識による言論マップ生成

○ 村上浩司, 水野淳太, 後藤隼人, 大木環美, 松吉俊 (NAIST),  
乾健太郎 (東北大/NAIST), 松本裕治 (NAIST)

優秀発表賞 (4件)

\* B3-7 行列分解による多クラス分類とその応用

○ 岡野原大輔 (東大), 辻井潤一 (東大/Manchester 大/NaCTeM)

\* A1-5 大規模ラベルなしデータを利用した係り受け解析の性能検証

○ 鈴木潤, 磯崎秀樹 (NTT)

\* E4-5 TYPO Writer: ヒトはどのように打ち間違えるのか?

- 荒牧英治（東大），宇野良子（東京農工大），岡瑞起（東大）
- \* D4-2 単語の意味クラスを用いたパターン学習による大規模な意味的關係獲得
- Stijn De Saeger，鳥澤健太郎，風間淳一，黒田航，村田真樹（NICT）

若手奨励賞(3件)

- \* PB2-11 ルールベース翻訳を前処理に用いた統計翻訳
- 福田智大(鳥取大)
- \* E3-8 モダリティ, 真偽情報, 価値情報を統合した拡張モダリティ解析
- 江口萌(NAIST)
- \* E5-5 文書長に依存しない文書定数
- 木村大翼(東大)

◇ まとめ

今大会は情報処理学会全国大会と共催とし，両大会にシームレスに参加できるよう，参加登録，当日受付，発表論文集などを共通化し，さらに聴講のみの場合は参加費を無料としました．参加費無料のため当初より赤字が予想されましたが，企業の広告・協賛が多かったことと，情報処理学会との共催によるコスト削減により，最終的には 170 万円程度の赤字決算となりました．

参加登録が両大会共通のため各大会個別の参加者数の統計はありませんが，発表論文集やチュートリアル資料集の申込状況，また発表会場の盛況ぶりから，言語処理学会は例年通り，もしくはそれ以上の参加者があったと思われます．発表数は 277 件(第 14 回大会より 6%減，第 15 回大会より 18%増)でほぼ例年の水準でしたが，チュートリアルの聴講者数は 360 名程度，本大会のセッションも常時 300 名～400 名程度の聴講者がありました．情報処理学会からの参加者も多数あったようで，発表会場においては言語処理分野以外の研究者からの質問がたびたび見られました．また，情報処理学会と言語処理学会両大会の参加者数は，これまでのそれぞれの大会の参加者数の合計を大きく上回る 7,510 名となり，かつてない盛大な大会となりました．

5. ニュースレターの発行

2010 年は，ニュースレター Vol.17 No.1～No.3 の 3 号を発行し，学会運営，大会案内，会議報告など会員への各種情報の提供を行いました．これらのバックナンバーは，学会ホームページでも公開しております．

6. 学会ホームページ等の整備

これまで学会ホームページは学会理事の機関のリソースを用いて運用しておりましたが，学会としてサーバのレンタル契約を行い，2010 年 6 月に学会ホームページを刷新し，さらに年次大会ホームページ，学会関連メーリングリスト等についてもこのサーバで運用する体制といたしました．

7. 理事会の会議

計 4 回の理事会を開催し，入退会会員の承認，新任評議員の承認，事業計画，予算，論文賞選考，学会誌査読方式，年次大会の方針，年次大会優秀発表賞，関連学会等への協賛等について審議し決定しました．また，会費納入や学会誌作成，ニュースレター発行等の学会運営についても議論しました．

理事会開催:

- 第 76 回 (2010 年 3 月 9 日，東京大学(本郷キャンパス))
- 第 77 回 (2010 年 6 月 17 日，産総研(秋葉原ダイビル))
- 第 78 回 (2010 年 9 月 24 日，国立情報学研究所)

第 79 回 (2010 年 12 月 16 日, 国立情報学研究所)

## 8. 編集委員会

### ◇編集委員会の会議

2010 年中に 5 回の編集委員会を開催し, 自然言語処理に掲載する論文の審議をいたしました。

2010 年 1 月より従来の査読方式から査読者 2 名の並列査読方式に移行し, 査読の公正性・客観性の改善, そして採否決定の一層の迅速化に努めております。

2010 年 10 月には, 任期満了となる編集委員 4 名の退任に伴い, 新たに 6 名の編集委員が就任し, 12 名に増員した編集委員体制で並列査読に臨んでおります。

また, 学位取得における論文投稿者の便宜を図るために, 第 75 回以降の編集委員会の開催時期を 1 ヶ月程度前倒しし, 合わせて会誌の発行時期を早めてまいります。

### 編集委員会開催:

第 71 回 (2010 年 1 月 29 日 産総研)

第 72 回 (2010 年 4 月 22 日 産総研)

第 73 回 (2010 年 7 月 27 日 東京大学大学院情報理工学系研究科)

第 74 回 (2010 年 10 月 20 日 東京大学大学院情報理工学系研究科)

第 75 回 (2010 年 12 月 15 日 東大情報基盤センター)

### ◇英文論文アーカイブ(IMT)への論文掲載:

情報関連学会による国際的な電子ジャーナルとしての IMT (Information and Media Technologies) の第 5 巻に英語論文 8 件を提供することとしました。

### ◇2010 年度優秀論文賞の選考:

論文賞は, 採録論文 30 件程度につき 1 件を目途に授与することになっています (平成 18 年 1 月の編集委員会で提案し, 理事会で承認)。これに基づき, 2010 年に出版された自然言語処理 17 巻 1 号から 5 号に掲載された論文 28 件から 1 件を推薦することを目標として, 以下の手続きで候補論文の選考を行いました。

(1) 第 1 次選考として, 期間中の各号に掲載された論文のうち, 査読点数が 5 点満点で 4 点以上の論文 12 件を対象に, 1 論文あたり 3 名の編集委員が読み, 10 点満点で採点しました。

(2) その結果, 高得点を得た上位 3 件の論文を第 2 次候補論文とし, 編集委員全員が 1 名の持ち票を一票として投票しました。

(3) その最多得票の論文 1 件について審議し, これを論文賞候補に推薦することに決めました。

これらの結果以下の論文に決まりました。

タイトル:「自動意味役割付与における意味役割の汎化」

著者:松林優一郎, 岡崎直観, 辻井潤一

発行号頁:Vol.17 No.4 pp.59-90

### ◇自然言語処理の電子化

創刊号から 2008 年度までの本誌が, JST の電子アーカイブ事業により無償で電子化され JST のサイト Journal@rchive で公開されることとなりました。また, 2009 年度以降の本誌も, 上記 Journal@rchive と一体的に運営されている J-STAGE での公開します。いずれも, 2011 年 3 月に公開開始というスケジュールです。

◇査読迅速化施策の効果

現在、査読迅速化のため一月以内に査読を完了した査読者に図書カードを進呈する施策を実施しております。以下の 3 つの尺度で測定しましたところ、施策の効果は劇的でした。

【平均査読日数＝一回あたりの査読にかかった日数の平均】

1. 図書カード進呈実施前(2006.5-2008.12.31):38 日
2. 図書カード進呈実施後(2009.1.1-):26 日

【査読期限遵守率1＝一回の査読が一ヵ月以内に完了する割合】

1. 図書カード進呈実施前(2006.5-2008.12.31):56%
2. 図書カード進呈実施後(2009.1.1-):82%

【査読期限遵守率2＝すべての査読を一ヵ月以内に完了する査読者の割合】

1. 図書カード進呈実施前(2006.5-2008.12.31):48%
2. 図書カード進呈実施後(2009.1.1-):73%

以上



## 2011年度事業計画

### 1. 運営・活動方針

言語処理学会の主要な活動として、論文誌「自然言語処理」を定期的に発行するほか、特集号の企画・発行を行い、年次大会を開催します。また、これらの論文誌や年次大会で発表された研究の内容を広く内外に流通させるとともに、会員の自然言語処理の研究発表を支援することも本学会の重要な役割と考え、活動を進めて参ります。

研究発表を支援する活動としては、昨年同様、若手の会が企画したシンポジウムの支援を行います。また、国際交流に関しては、いままで、特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力を行ってきました。今年度も予算の許す範囲で、このような研究活動の支援を継続して実施します。

当学会では、収益の拡大と節約を旨とする皆様のご努力により、活動資金に余裕が生まれてきました。今後は、会費の引き下げや、年次大会におけるプログラム委員長および大会実行委員長の負荷軽減などについても検討し、収支のバランスのとれた学会運営を目指していく予定です。

### 2. 会誌の発行

- ◇第 18 巻第 1 号(2011 年 1 月 10 日発行, 通巻 79 号)
  - ◇第 18 巻第 2 号(2011 年 6 月 10 日発行予定, 通巻 80 号)
  - ◇第 18 巻第 3 号(2011 年 9 月 10 日発行予定, 通巻 81 号)
  - ◇第 18 巻第 4 号(2011 年 12 月 10 日発行予定, 通巻 82 号)
- 以上の通常号のほか、特集号を予定しています。

### 3. 第 17 回年次大会の開催

- 日時: 2011 年 3 月 7 日(月)~3 月 11 日(金)  
会場: 豊橋技術科学大学
- 3 月 7 日(月) チュートリアル ( 11:00~18:30)  
3 月 8 日(火) 本会議 第 1 日 ( 9:30~18:00)  
3 月 9 日(水) 本会議 第 2 日 ( 9:00~18:00)  
    総会 (13:00~14:00)  
    招待講演 (14:00~15:00)  
    懇親会 (19:00~21:00)
- 3 月 10 日(木) 本会議 第 3 日 ( 9:00~18:20)  
3 月 11 日(金) 併設ワークショップ ( 9:30~17:30)

### 4. ニュースレターの発行

原則として、前年と同様の回数と内容で発行する計画で、学会メーリングリストを通じて電子配送します。これらは学会ホームページにバックナンバーとして公開します。また、理事会で審議された事項の公開をおこないます。

### 5. 会議

#### ◇総会

通常総会を 2011 年 3 月の年次大会で開催します。

#### ◇理事会

昨年度同様に開催します。予算のゆとりを会員に還元する施策・事業、論文等の電子的公開、年次大会の開催、他学会との連携などについて審議します。

#### ◇評議員会

総会に合わせて 2011 年度第 1 回会合を開催します。学会全体の活動の活性化に向けた施策、関連

する研究分野との交流の促進などについて議論します。

◇編集委員会

編集委員会を会誌の発行に合わせて開催し、迅速かつ充実した論文審査を目指して、より良い査読の方法を検討します。また、管理の再電子化、すなわち、RACCO のかわりを検討してきましたが、並列査読の導入によりプロトコルがより複雑になった一方、メール管理による現運用で大きな問題がないので、この運用を継続する予定です。

6. 協賛の予定

日 時: 2011年3月7日(月)

場 所: 豊橋技術科学大学

主 催: 情報処理学会 SLP 研究会音声ドキュメント処理ワーキンググループ  
豊橋技術科学大学メディア科学研究会

6. 2011 年度評議員構成

2008－2011 年度評議員		2010－2013 年度評議員	
天野 真家	湘南工科大	神門 典子	国立情報学研究所
池田 尚志	山梨英和大学	安藤 真一	日本電気株式会社
梅村 恭司	豊橋技科大学	村田 真樹	鳥取大学
大塚 裕子	計量計画研究所	大野 将樹	電気通信大学
落谷 亮	富士通株式会社	山本 幹雄	筑波大学
小原 京子	慶応大学	福本 淳一	立命館大学
北村 美穂子	沖電気工業株式会社	二宮 崇	愛媛大学
竹内 孔一	岡山大学	木村 泰知	小樽商科大学
田中 久美子	東京大学	佐々木 裕	豊田工業大学
徳永 健伸	東京工業大学	藤井 敦	東京工業大学
新田 義彦	日本大学	富浦 洋一	九州大学
丹羽 芳樹	株式会社日立製作所	榊井 文人	北見工業大学
林 良彦	大阪大学	坂原 茂	東京大学
平川 秀樹	株式会社東芝	荻野 紫穂	日本アイ・ビー・エム株式会社
フランス ホント	情報通信研究機構	秋葉 泰弘	日本電信電話株式会社
山本 和英	長岡技科大学	神崎 享子	国立国語研究所
		佐良木 昌	日本大学
		柴田 勝征	福岡大学
		増市 博	富士ゼロックス株式会社
計 16 名		計 19 名	

7. 2011 年度役員構成

役員名	氏名	所属
会長	橋田 浩一	産業技術総合研究所
副会長 (総編集長兼務)	中岩 浩巳	日本電信電話株式会社
理事 (編集委員長)	隅田 英一郎	情報通信研究機構
理事(編集担当)	乾 健太郎	東北大学
理事(編集担当)	荻野 綱男	日本大学
理事(事業担当)	佐藤 理史	名古屋大学
理事(事業担当)	黒橋 禎夫	京都大学
理事(事業/渉外 担当)	颯々野 学	Yahoo!
理事(渉外担当)	奥村 学	東京工業大学
理事(渉外担当)	柏野 和佳子	国立国語研究所
理事(財務担当)	田口 大悟	日本電気株式会社
理事(総務担当)	村上 仁一	鳥取大学
理事(総務担当)	宇津呂 武仁	筑波大学
		(以上 13 名)
監事	樽松 明	早稲田大学
監事	斉藤 博昭	慶応大学
		(以上 2 名)
顧問	長尾 眞	国立国会図書館
顧問	飯田 仁	東京工科大学
顧問	辻井 潤一	東京大学
顧問	島津 明	北陸先端大学
顧問	中川 裕志	東京大学
顧問	石崎 俊	慶応大学
		(以上 6 名)

会誌編集委員会 2010-2011 年度		
総編集長	中岩 浩巳	日本電信電話株式会社
編集委員長	隅田 英一郎	情報通信研究機構